

しずくしい 議会だより

●今号の主な内容

3月定例議会のあらまし…2~4

予算特別委員会…5~9

常任委員会の活動報告…18

町の考えをただす

一般質問 8議員が登壇…10~17

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り (35) …22~23

●平成21年5月14日発行

発行／雫石町議会

〒020-0595 岩手県岩手郡雫石町千刈田5番地1

電話 019-692-2111 ファックス 019-692-2828

ホームページアドレス <http://www.town.shizukuishi.iwate.jp/>

編集／議会広報編集特別委員会

No.69



3月定例会のあらまし



平成21年度予算などを審議した3月定例会の様子

一般会計75億5,500万円で新年度がスタート (予算総額では136億4,105万円)

平成21年第2回定例会は、3月3日から17日まで15日間の会期で行われました。

冒頭に、町長の施政方針演説と教育委員長の教育施策方針演説があり、本年度の本町の方向性が示されました。

本定例会では、条例案件が10件、補正予算案件が12件、指定管理者案件が2件、議決を要する案件が1件、平成21年度の当初予算案件が12件ありました。

予算については、予算特別委員会を設置し、4日間にわたり審査をしました。

一般質問は8名が登壇し、介護保険事業計画、中心商店街の活性化、観光客の誘致、農業の振興策等について、2日間にわたり町当局の考えを質しました。

計37件の議案は、すべて原案どおり可決し、請願1件は採択としました。ほかに、請願を受けての意見書の提出と会議規則一部改正の2件を発議しました。また、岩手県後期高齢者医療広域連合議員の選挙では、平子忠雄議長を指名推薦しました。

■条例（主なもの）

- 町介護従事者処遇改善基金条例の制定（全会一致で可決）
介護従事者の処遇改善のために行われる平成21年度介護報酬改定に伴う介護保険料の急激な上昇を抑制し、被保険者の負担軽減を図るもの。
- 鶯宿地区水辺公園条例の制定（全会一致で可決）
観光客の増加及び町民と観光客の交流促進のため整備するもので、足湯の使用料は無料。
- 町課設置条例の一部改正（全会一致で可決）
時代に適合した行政運営や行政課題に迅速に対応するため、税務課を出納課と統合して「税務出納課」に、農林課と商工観光課を統合して「産業振興課」にするもの。
- 町特別職の職員で非常勤のものの報酬および費用弁償等に関する条例の一部改正（全会一致で可決）
新たに介護認定調査員、火葬場管理専門員、消費生活相談員を追加するもの。

○町介護保険条例の一部改正（全会一致で可決）

第4期介護保険事業計画の見直しに伴い、平成21年度から平成23年度までの保険料率の改定をするもの。

○雫石銀河ステーション設置条例の一部改正

（賛成多数で可決）

観光交流センターを除いて、指定管理者に農林産物直売、食材提供供給施設、広場および駐車場等の管理を行わせるもの。

○町公共下水道事業受益者負担に関する条例の一部改正（全会一致で可決）

・町場負担区、天戸東負担区等を新たに追加するもの。

■補正予算（主なもの）

○一般会計補正予算（第7号）（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
86億2,780万7千円	△7,928万円	85億4,852万7千円

- ▶（仮称）町立健康センター新築工事（減） △1,876万3千円
- ▶雫石診療所特別会計繰出金（減） △ 321万2千円
- ▶肥料高騰対応緊急対策事業補助金 2,199万7千円
- ▶畜産経営安定化緊急対策事業費補助金 1,522万6千円
- ▶町内共通買物券事業費補助金 1,135万円

○国民健康保険特別会計補正予算（第3号）

（賛成多数で可決）

補正前の額	補正額	計
20億2,335万5千円	2,035万円	20億4,370万5千円

- ▶退職被保険者等療養給付費 1,146万7千円
- ▶一般被保険者高額療養費 1,149万4千円
- ▶老人保健医療費拠出金（減） △843万7千円

○老人保健特別会計補正予算（第1号）

（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
2億1,409万円	3,683万5千円	2億5,092万5千円

- ▶医療等給付費（減） △1,564万8千円
- ▶一般会計繰出金 5,248万3千円

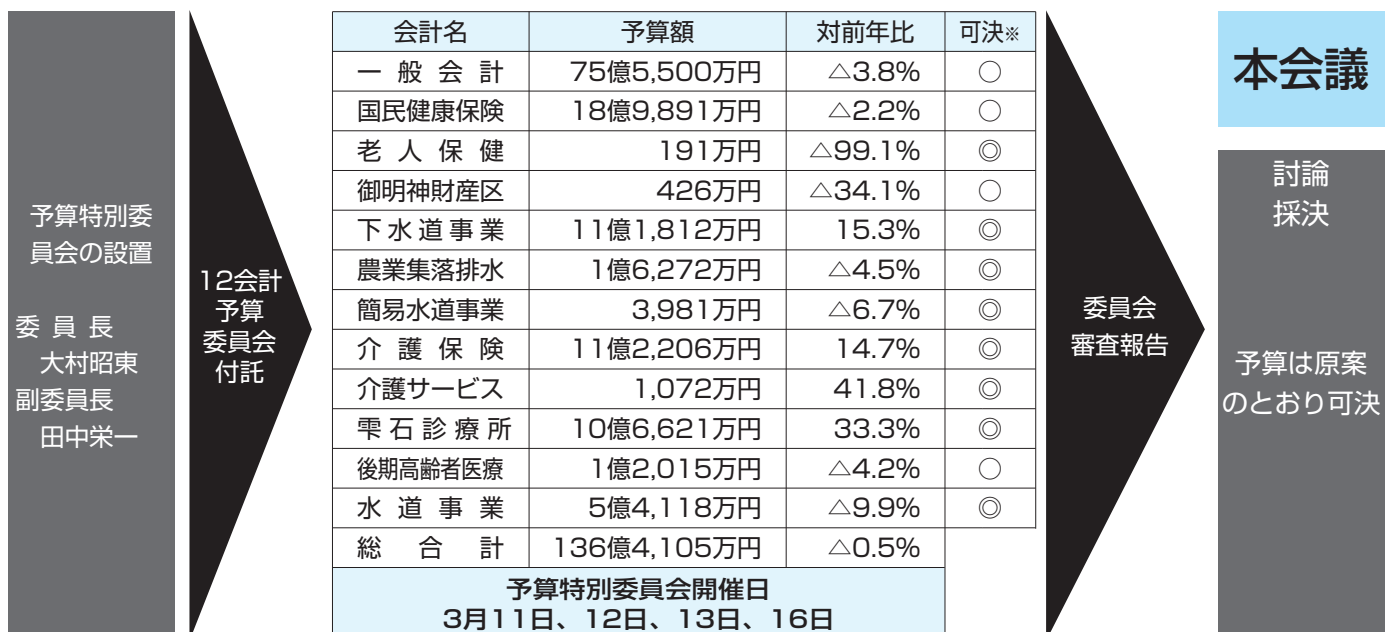
○介護保険事業勘定特別会計補正予算（第3号）

（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
10億2,556万7千円	2,664万円	10億5,220万7千円

- ▶居宅介護サービス給付費負担金 964万円
- ▶施設介護サービス給付費負担金 988万3千円
- ▶介護従事者処遇改善基金積立金 978万3千円

平成21年度各会計当初予算の成立までの推移



※◎全会一致で可決 ○賛成多数で可決

○雫石診療所特別会計補正予算（第3号）

（全会一致で可決）

補正前の額	補正額	計
8億867万9千円	△7,023万3千円	7億3,843万9千円

▶（仮称）町立健康センター新築工事（減） △5,467万5千円

▶医師住宅建設工事 101万7千円

○後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

（賛成多数で可決）

補正前の額	補正額	計
1億2,548万4千円	△876万9千円	1億1,671万5千円

▶県後期高齢者医療広域連合負担金（減） △1,078万8千円

■指定管理者

○雫石町農村資源活用施設（そば打ち体験施設、農林産物処理加工施設、日本のハーブ園およびビニールハウス）の管理（全会一致で可決）

- ・指定管理者となる団体の名称 特定非営利活動法人 オール・カネージュ雫石 理事長 小志戸前 和夫
- ・指定の期間 平成21年4月1日～平成25年3月31日まで

○雫石銀河ステーションの管理（賛成多数で可決）

- ・指定管理者となる団体の名称 株式会社しずくいし 代表取締役 山本 浩
- ・指定の期間 平成21年4月1日～平成25年3月31日まで

■請 願

○家族従業員の人権保障のため所得税法第56条の廃止を求める請願（採択）

請願者／岩手県商工団体連合会婦人部協議会

会長 村上 フヂヨ

- ・自営業者の家族従事者の対価の支払いを白色でも必要経費として認めてほしいというものです。

■発 議

○雫石町議会会議規則の一部改正について（全会一致で可決）

- ・地方自治法の改正に伴い、雫石町議会会議規則の所要の整備を図るため改正するものです。

○所得税法第56条の廃止を求める意見書の提出について（全会一致で可決）

- ・中小零細業者を支えている家族従業員の「働き分」は税法上必要経費として認められていない。事業主の所得から控除される働き分は、配偶者が86万円、家族は50万円、家族従事者はこの控除が所得とみなされるため、社会的にも経済的にも全く自立できない状況となっている。世界の主要国では自家労賃を必要経費としている中、大きな見直しを求める声も出ている。税法上も、民法、労働法や社会保障上でも家族従業員の人権保障の基礎をつくるためにも、所得税法第56条を廃止することを求めるものです。

臨 時 会

平成21年第1回臨時会は、2月19日に1日間の会期で行われました。

補正予算案件が1件あり、原案どおり可決しました。

話題の定額給付金や子育て応援特別手当は、町より3月下旬から4月中には世帯主の口座に振り込まれる予定です。

■補正予算

○一般会計補正予算（第6号）（賛成多数で可決）

補正前の額	補正額	計
80億9,503万6千円	5億3,277万1千円	86億2,780万7千円

- ▶定額給付金給付費 2億9,992万1千円
- ▶子育て応援特別手当 900万円
- ▶体育施設費 7,405万7千円
- ▶道路維持費 4,180万円
- ▶道路新設改良費 3,490万円
- ▶道路橋梁災害復旧費 2,088万5千円

町当局に8項目の意見を提言

意見

1

第三セクターである株式会社しずくいしがいろんな事業拡大に取り組んでいる。町民の代表として役員に議員も派遣するべきではないか。

意見

5

菜種搾油施設が完成した。
特に町内産菜種は期待されており、廉価で町民に供給できるようにしてほしい。

意見

2

農業体験の受け入れで民宿などの宿泊施設は設備はいいが農業の体験上、対応しきれないところもある。また農家も食事や風呂等で戸惑いがある。受け入れ対応ができるよう農家育成も必要ではないか。

意見

6

住基カードを無料化したが、発行枚数があまり伸びない。個人情報の関係で身分証明として提示できることから、もっとPRし交付金がもらえるうちに発行に努力すべきではないか。

意見

3

昭和35年教育委員会表彰規定が制定されたが一度も適用されていない。子どもたちが全国レベルの活動やスポーツで非常に町をPRしてくれた場合は、大いに激励し子ども心をはぐむようにしてもらいたい。

意見

7

農業指導センターは、集落営農等の事務事業の指導が中心であったが、今後は産業再生戦略会議、産業振興課等と連動して雫石農業の活性化（営農戦略の提言・技術指導等）を担うような体制に強化してもらいたい。

意見

4

キャラクターコンテストでしずくちゃんが県内1位となった。商標登録がある野菜だけではなく、販路拡大に向け雫石の農産物すべてに使用し、PRしていくべきではないか。

意見

8

まちおこしセンター（仮称）には、食材産地の宣伝や物産の販売につなげるために、地域の食材を使った料理や伝統工芸品など、ものづくりを楽しめるような機能をもたせてもらいたい。

平成21年度の一般会計、特別会計および企業会計予算を議決することに対する討論が行われました

反対

伊藤哲夫議員

今大変な不況の時代で、雇用危機や福祉の切り捨てが横行している。お年寄りの負担は、後期高齢者や介護保険で大変な状況だ。雇用促進に努め、国保の資格証明や短期証明は出さない町にして行かなければならない。御明神財産区は事業をもっと拡充し執行すべきことなどから反対する。

討論

賛成

猿子恵久議員

国、県からの補助金が削減される中、農林水産物直売施設の稼働なり、特産品販路拡大事業や定額給付金支給と合わせた2回目のプレミアム付商品券の販売など、町民目線に合う各種事業を掲げ、財政運営健全化に細心の注意を払い、予算への苦心が随所に見られるため適正と認め賛成する。

予算を徹底チェック

平成21年度各種予算審査の中で取り上げられた主な質疑内容。

歳入・総務

問 昨年より税収納率を低くみているが、新予算に対する収納率の見通しはどうか。

答 20年度の収納率は93.01%、21年度の収納見込額92.6%となっている。景気動向が絡むが、担当課として収納率アップに取り組んでいきたい。

問 (株)しずくいし株式配当金について、総務常任委員会の事務調査で請求した試算表では12月末で352万円程度の利益しか出ていない。町当局収入に426万円の配当を見込んでいるが、本当に配当できるか。

答 20年度は1億6,100万円程度の売り上げで13.7%の減という状況である。対策として役員報酬の5%減や手当のカット、経費の圧縮などの努力をして、この予算計上となったので理解いただきたい。

問 総務費の報償費に職員の報償費または表彰に係る部分が入っているか。職員の意識向上のためにも必要と考えるが。

答 現在、職員表彰制度は業務に対する提案や顕著な実績があった場合などと考えているが、意識向上のために必要な制度と考えており、資格取得やアイデアの実践などその内容については今後検討していきたい。



にぎわいをみせる (株)しずくいしが運営する道の駅 栗石あねっこ

問 税務調査員の報酬が前年比で約半分になっているのはなぜか。

答 2名のうち、平成20年度から県の国保の収納率向上対策交付金事業により、1名分の税務調査員報酬を国保会計で計上しているためである。

問 総務費の航空利用促進協議会について伺いたい。花巻空港に韓国からのチャーター便を受け入れないとのことだが、それでも会費を納めるのか。

答 一時は協議会をやめるくらいの意気込みで交渉したが、4月9日から新ターミナルが供用開始となり、現在は台湾からのチャーター便もある。県もチャーター便や国際定期便等に積極的に取り組んでいくとのことである。

農林水産業費

問 和牛の育種化事業の現状はどうなっているのか。雪石牛を維持し、振興していくためには、自家保留あるいは町内保留の制度が必要だと思うがどうか。

答 種牛保有農家は4農家で、種牛候補牛の育成農家が1農家ある。育種頭数は平成19年度までで110頭程となっている。肥育の町内保留は大切であり、毎年、県にお願いして何とか県と町で継続している。育種農家と連携を取りながら対策を講じていく。



飼養技術の成果を競う畜産共進会

問 ワーコム[※]全国大会の開催概要と本町におけるワーコム米栽培の現状はどうなっているのか。

答 平成22年2月7日、8日に鶯宿温泉で開催する予定であり、350名程の参加者を見込んでいる。20年度の作付面積は836ha（434戸）となっている。名古屋市場での大和産業の取り扱いが多く、良いものとのイメージがあるが、価格面ではまだこれから努力していかなければならない。

※植物の根を丈夫に育てる堆肥発酵促進材。

問 町有林の人工林で伐期に達している面積はどのくらいあるのか。川井林業を誘致しており、木材流通を考えると、町有林、財産区有林の伐採も検討すべきではないか。

答 杉は681ha造林されており、9齢級（45年）以上のものは、おおよそ126ha、赤松は149ha造林されており、9齢級以上のものが、おおよそ100haである。伐期については、価格の低迷で10年は延ばそうというような対応もしているが、町有林、財産区有林の間伐等については、川井林業にも現地を見てもらい対応していきたいと考えている。なお、川井林業には北東北3県からの木材が不足なく集まっている。

問 所有から利用へという農地の流動化がなかなか進まないが、農業委員会はどう促進しようとしているのか。

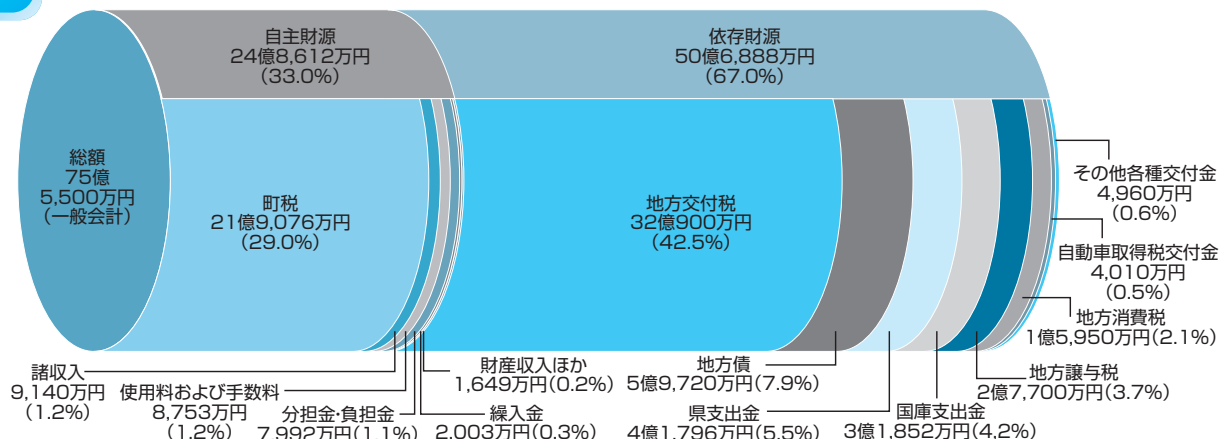
答 農地の流動化の背景には、耕作放棄地の増大があり、所有から利用へと制度改革がなされようとしている。農業委員会としては、担い手の方々に集積を重点的に進めていければいいと考えている。農業委員は地域担当制となっており、地域に入り指導していけるような取り組みをしており、今後、一層強化していく。



活用が待たれる遊休農地

数字で見る予算 一般会計

歳入の内訳



問 アグリリサイクルセンターや、畜産農家の堆肥を有効活用し、資源循環型農業としての特色ある農産物を製造していくべきではないか。

答 価格に反映できるような特色ある農産物を作っていく必要があり、産業再生戦略会議等で戦略を練っているところである。価格に反映できるような独自の流通体系や市場評価を得る方策も検討していく。

問 ふるさと雇用再生特別交付金を活用した雇用計画の概要は。

答 水辺公園完成に係るの物品販売・案内強化などで鶯宿観光協会1名、法人化に伴う独自事業・誘客などで町観光協会1名、ネット販売・まちおこしセンター補助などで商工会3名の計5名である。

問 観光協会の法人化で期待される事業は何か。

答 観光協会が主体で誘客し、収益を得る旅行業を展開し、体質強化、会員増を期待したい。

商工費

問 観光に関する補助金、負担金が多岐にわたって計上されているが、これらの事業は当町とどういう結びつきがあるのか。実効ある機能をしているのか。

答 これらの負担金等は町単独のものもあるが、県レベルのもの、北東北3県のものもある。観光は町単独では難しいので、広域連携が必要であり、すべて有効で必要な事業である。北東北3県観光立県推進協議会負担金、秋田岩手広域地域連携観光交流推進協議会負担金等は広域観光ルートの中で本町をPRできている例である。



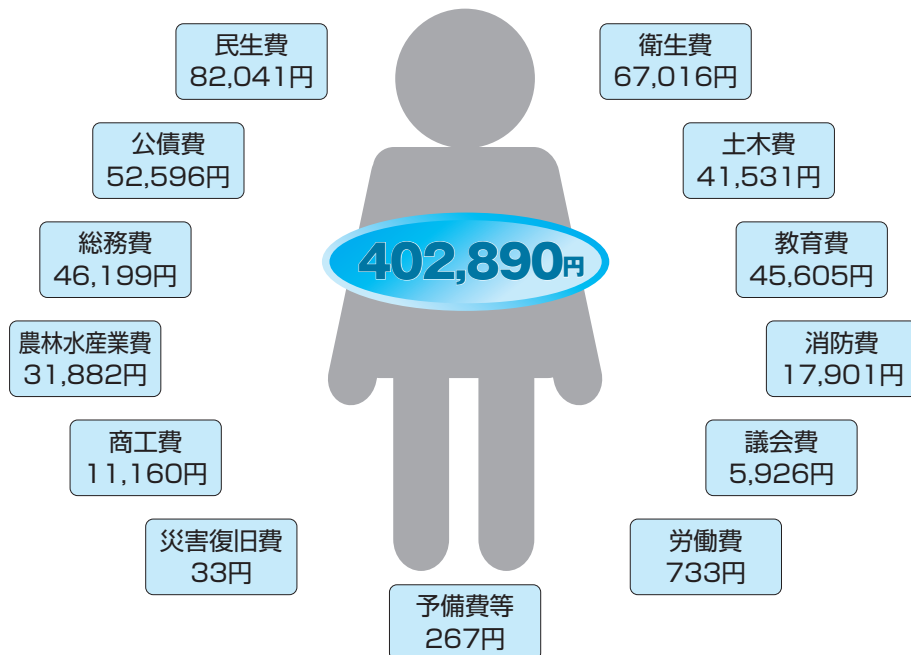
水辺公園に設置された足湯

町民 一人あたりの 金額

平成21年3月末
人口18,752人で試算

ワンポイント解説

民生費…主に高齢者、障害者、子どもの福祉に使うお金
公債費…町債（借金）返済に充てるお金
労働費…雇用対策や勤労者の支援に使うお金
衛生費…ごみ処理や母子保健、検診などに使うお金



教育費

問 少子化が進む中、学校の適正配置の問題は避けて通れないのが現実である。教育委員会としてはっきりした方針を持って臨むべきではないか。

答 18年にアンケート、住民懇談会を行ってから3年も経過している。新年度は識者懇談会、進展によっては検討委員会へと進めたい。

総括質問

問 町の人口の推移を非常に懸念する。将来を見据えた町独自の少子化対策を考えるべきと思うがどうか。

答 対策は十分検討し、工夫は凝らすが難しい部分がある。子育てしやすい環境や、若い労働者が住みやすい環境などの受け皿は、先を見越して行くべきと考える。

特別会計

問 町の地方債現在高総額に占める下水道債割合は県内市町村1位で50.1%（平成18年）である。このままだと利用者負担が過大となる。下水道、農業集落排水、浄化槽の経済比較を行い、各地域で最もコストのかからない整備方法を選択し、各設備の負担の不公平も是正されたい。

答 今後は合併浄化槽の普及が中心となるだろう。生活環境には絶対必要な施設であり、効率面、経営面を考慮し適正な処理計画を推進する。



対策が望まれる少子化問題



質問者／
かとう ますみ
加藤眞純 議員

公害防止協定締結の進展は

町長／地域住民の合意を最優先に

加藤議員 川井林業は、試運転開始から10カ月が経過した。「公害防止協定案」は、地元からの要望がまったく反映されることなく、棚上げの状態である。この協定は、実際に苦情を訴えている町民の参画による協定検討と締結が欠かせないはずである。具体的にどのような手順で、いつまでに、環境保全に実効力のある協定にしていくのか。

町長 出来るだけ早い時期の締結と、町・川井林業・地域住民の三者での締結を目指し、地域住民の合意を得ることを最優先に進めるべく、極楽野環境保全の会と町と企業三者の意思疎通を図りつつある。

低周波音を含む騒音問題、ボイラーの異常排煙対策

加藤議員 低周波音を含む騒音問題と、ボイラーの異常排煙の原因となっている燃料について、川井林業に対してどのように対策を行ってもらうようにしていくのか。

町長 騒音については、測定値は環境省の参照値以下だが、現実の苦情に対し、川井林業に対策を申し入れ5項目の対策をした。ばい煙については、電気集塵機の故障修理、燃焼効率を上げるため燃料を乾燥するなどの対策中である。

加藤議員 参照値以下でも被害の事例がある。また5項目の対策は、低周波音に対

する効果は殆ど期待できない。専門家を入れた検討をやって頂きたい。

町長 現に訴えがあるので、前向きに検討していく。

接着剤付き集成材端材は燃料にしない

加藤議員 電気集塵機故障のまま24時間運転を9日間もしていたことは問題であるが、含水率の高い燃料を大量に投入すれば、燃焼温度は下がり黒煙が上がり、規制値をクリアできないばかりか、早晩また集塵機が故障する。燃料対策が必要である。また、接着剤付着の集成材端材を8月から10月にかけて燃料にしていたことも大きな問題である。この端材は住民への健康被害の恐れがあるので、燃やさないよう指導をお願いする。

環境対策課長 燃料を乾燥する対策をしている。また、接着剤付き端材を燃やした件は、工場の責任者を呼び、町長から嚴重注意した。今後はやめるよう指導している。



2009年2月11日8時29分煙が傘状に滞留

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明
議員



平成21～23年度の介護保険料は

町長／基準月額保険料を3,338円に改定

し、これに基づき保険料を算出した結果、第4期の介護保険料（基準月額保険料）は3,955円となったが、介護給付費準備基金を1億円取り崩して月額567円を減額し、さらに介護報酬改定による上昇分の2分の1の50円（国からの交付金充当）を減額して、第1号被保険者の負担軽減を行い3,338円と設定した。

予算が地域経済活性化に果す効果は

杉澤議員 平成21年度予算が地域経済活性化に果す効果をどう見込んでいるのか。

町長 平成21年度一般会計当初予算案は、75億5,500万円で前年対比3.8%減となっているが、先の補正予算（国の経済対策に対応した予算）に盛り込んでいる事業のうち、21年度に繰り越しを見込む事業費約5億7,500万円を含めると、約81億3,000万円となり、3.8%増となることであり、町内での消費の循環や公共関連事業就労者の雇用の下支えにつながるものと見込んでいるところである。

杉澤議員 町は高齢者プランを策定し、その中で平成21年度から23年度までの第4期介護保険事業計画を作られたが、この計画に関し、介護保険施設入所希望者の増加や重度化の進行への対応方針、介護保険料はいくらになるのか、について伺いたい。

町長 介護保険施設入所希望者の増加や重度化の進行への対応方針については、医療療養病床から老人保険施設への転換予定の32床の利用および盛岡広域圏の中での利用調整することにより待機者の解消に努めるとともに、待機者には訪問介護サービスやショートステイなどの利用により家族の負担軽減を図る。また、適切なケアプランを提供し、介護サービスの利用により重度化への進行の抑制につなげたい。介護保険料については、要介護認定者数の推計による給付見込額や療養病床から老人保健施設への転換による給付見込額の増加等に加え、介護報酬3%アップの改定、第1号被保険者の負担割合が1%増となったことを見込み給付見込額を算定

○第1号被保険者の介護保険料

所得段階	基準月額保険料	負担割合（係数）	年額保険料	
			21年～23年度	18年～20年度
第1段階	3,338円 (3,170円)	0.50	20,100円	19,100円
第2段階		0.50	20,100円	19,100円
第3段階		0.75	30,100円	28,600円
第4段階		1.00	40,100円	38,100円
第5段階		1.25	50,100円	47,700円
第6段階		1.50	60,100円	57,200円

※基準月額保険料の（ ）内は18～20年度の保険料。所得段階は第6段階が1番高い層を示す。



質問者／
た なかえいいち
田中栄一 議員

第71回岩手国体、本町での開催種目は

町長／アーチェリー競技を予定

田中議員 平成28年に2巡目の第71回岩手国体の開催が予定されている。当町が国体競技会場になることは、単なるスポーツイベント開催にとどまらず、基幹産業である農業や観光業をはじめ他の産業に及ぼす経済効果や、社会基盤の整備と地域づくり、人づくりにも大いに貢献するものと思う。国体競技会場の誘致に積極的、かつ熱意を持って行なっているか伺いたい。

町長 本町への開催希望があったのは、アーチェリーとボートの2競技である。ボート競技は、県営御所湖公園艇庫を主会場として計画したい旨の要請があったが艇庫は、盛岡市に位置しており市では開催を希望しないということで開催は困難と判断した。

アーチェリー競技は、主会場を町営陸上競技場、練習会場を町営野球場、雫中・雫高のグラウンドで計画したいとの開催要請があり、本町ではアーチェリー競技の開催を承諾する。

国体の主会場について

田中議員 2巡目の岩手国体の主会場を盛岡市に誘致することは盛岡地域市町村の地域振興にとって大変重要ことと思う。当議会でも主会場を盛岡で開催する要望書を提出している。本町にも会場の改修費の応分の負担を求められたら応ずる考えがあるか。

町長 本町は、多くの宿泊施設と観光地が立地し、様々な波及効果が期待できることから、地域市町村と連携し誘致活動に取り組んでいる。本町の応分の負担は、今後、盛岡地域市町村での合意を前提に検討したい。

中心商店街の活性化について

田中議員 現在、市街地活性化計画に基づいて、元町のコンビニ跡地を取得し、多機能複合施設「まちおこしセンター（仮称）」開設の計画が進んでいるが、「町を元気にする」活動拠点としては駐車場が狭く見通しも悪い、そこで隣の空き店舗を取得する考えはないか。

町長 雫石商工会TMOから今後「まちおこしセンター（仮称）」の運営や中心市街地活性化事業の展開上必要な用地として要望があれば、町は事業の推移を考察の上検討したい。

田中議員 中心市街地の活性化を図るとき、まず第一に必要な事は、買い物客が安心して街を歩く事が出来るか否かと言うことである。よって歩道と駐車場の整備の必要性や安全の確保について町長の見解を伺いたい。

町長 現状の建物をセットバックしての歩道の拡幅はなじまないことから、車道に一定の制限を加え、歩行者空間を確保する手法が相応しいものと考えている。

質問者／
石亀 いしがめ
貢 みつぎ
議員



特産品の販路拡大を

町長／ネット販売の構築を計画

安全で安心して暮せるまちづくりの実現に向け、次世代に適切な水道を引き継ぐ事業運営が必要と考える。施設の老朽化で事業運営の変化が見られ、課題に適切に対処して早期に対応、1カ月としての経営管理、バランスのとれた計画的な経営と情報公開で事業の透明性の向上を図るべきと考える。

町長 月次決算報告は、平成18年度から矢巾町、兵庫県川西市が実施、全国の水道事業会計を見ても導入していない団体が多いのが現状だ。導入する問題点として迅速性、正確性のバランスの難しさや専門的な職員の養成、事務量の増大が考えられる。本町の水道事業施設は、給水開始から40年以上経過、老朽化が進み、有収率80%下回る現状で、大規模な更新事業が喫緊の課題で中期経営計画の見直し、経営改善を行い、安全、安心な水の供給に努めたい。

石亀議員 本町は人口の減少が続く、農業の生産、販売、観光産業ともに伸び悩んでいる。米、野菜、牛肉などの特産品があるが、町の活性化に新たな販路拡大に取り組むべきと考える。

町長 町の物産振興の取り組みは、町内イベント行事への出展、特産工芸品の展示販売を展開しているが、商品企画、マーケティング、販路拡大等に必要なノウハウや宣伝媒体の活用も不足している。平成21年度、町が雫石商工会へ委託、物産展とあわせ、国のふるさと雇用再生特別交付金を財源として、地域資源を活用した農商工官連携による物産振興の取り組みをさらに推進、町の特産品を活用したネット販売の構築に、鋭意取り組んでいく。

水道事業の月次決算対応について

石亀議員 水道事業は高い公共性を有し、使用者と協働のもとに理解を得ながら推進、



銀河ステーション内にオープンした「えきなか驛田舎産直」



質問者／
うわの み よ じ
上野三四二 議員

婦人消防協力隊の身分保障確立を

町長／女性消防団員の登用なら可能

上野議員 緊急災害時の地域防災組織をどのようにコントロールし防災組織間の連携を図る考えか。また婦人消防協力隊の活動はすばらしい、加入促進を図り活動強化のために身分保障が確立されるように、同隊を発展的改組の考えはないか。

町長 自主防災組織間の横の連携よりも、消防や災害対策本部とのタテの連携を考える。総合訓練や地域訓練。危険個所や避難所など明記した防災マップを新年度中に作成したい。

婦人消防協力隊は、消防団の設置に関する条例に定める範囲で、女性消防団員の登用は可能であり、身分も保障される。課題も多く消防団、婦人協力隊と協議して、よりよい方向で活動できるように検討したい。

町施政方針、教育施策方針演述のうち ここが聞きたい

上野議員 町長の施政方針演述の中に、産業再生、農観一体のまちづくりの振興策があるが、具体的な目標値と再生支援策はどうか。また教育委員長の教育施策方針演述には、緊急改善を要する中学校の改革施策と関連する教育方針が必要でなかったか。

町長 産業再生会議の継続設置によるなど、農林産物直売、食材供給、流通販路の

確保をすすめ、商店中心街にまちおこしセンター（仮称）の整備による農業、観光等多様な再生支援を図る考えである。目標値は町の基本計画や観光ビジョンに示した指標で取組む。町の機構も農林課と商工観光課を統合し産業振興課とし一体推進を図る考えである。

教育委員長 雫石中学校対策を念頭に、新年度において校種間連携の強化充実のため、保育・幼稚園から中・高校まで、観察や指導が必要であり、教育推進員を配置したい。学校、家庭、地域の体制づくりを推進する。学校現場は校長が経営者であり、主体性を持たせることは当然と考えている。

町の各種事業、行事のマンネリ化防止を

上野議員 文化・体育活動など、町主催の各種事業・行事、後援活動、委託事業など一部にマンネリ化や低下、稀薄化が散見されるが、見直しを図り参加、集客率を高める対策が必要でないか。

教育長 盛況なものもあれば減少のものもある。諸事業の企画段階で検討しなければならなし、参加向上のため、広報活動、協力団体との連携、チラシ配布の方法、催事企画など町民の意見やアンケート等を参考にするなど、またマンネリ化から脱却するよう努めていく。

質問者／
前田隆雄 議員
またたかお



飼料米への取り組みは

町長／希望があれば支援したい

前田議員 県内の市町村において、「飼料米」への取り組みが始まっているが、本町にも事例があるか。また、本町でも取り組むことは可能か。

町長 本町では現在のところ事例がないと聞いている。理由として、「飼料米」の買取価格が主食用米価格が1kg230円に対し、1kg当たり45円前後であり、国の助成だけでは採算が取れないことから徹底した低コスト化と多収性品種の導入が必要である。

しかし、国が自給率の向上や水田フル活用の推進などに効果大きいとして新たに支援策を打ち出したところでもあるので、岩手県やJA新いわてなど関係機関、団体から情報を収集し、希望する農家が円滑に取り組めるよう支援したい。

水田農業構造改革交付金 (産地づくり交付金)について

前田議員 産地づくり交付金は定額で交付を受けている性質上、転作面積が増えれば増えるほど農家に対する交付額が減少することになる。

転作をさらに拡大して行くのであれば、転作による収入向上のための指導など、何らかの対策が必要ではないか。

町長 今後、米の価格低迷による一般転作への切り替えや担い手への集積化などで、転作への取り組みが拡大、加速化することも考えられ、大幅な交付金の落ち込みが生じる状況となった場合には、町における補てん措置などの必要性も検討しなければならないと考える。

温泉バスについて

前田議員 観光に力を入れる出湯の町として、雫石駅からの発着で、途中設けた停留所での乗降が可能な「温泉バス」を運行してはどうか。

町長 銀河ステーションでは本年4月に「驛田舎（えきなか）産直」「レストラン雫」を開設する予定であり、銀河ステーションを訪れる観光客の増加が期待される。現在しずくいしデマンドタクシー運行事業を実施しているが、あくまでも生活交通として住民サービスのための足の確保であり、二次交通としての「温泉バス」について温泉地が町内各所に散在しており、また距離的な問題などから判断して相当厳しいものとする。



観光の拠点となる雫石銀河ステーション



質問者／
いとうてつお
伊藤哲夫 議員

農作物の価格補償の確立を

町長／現行制度を踏まえ慎重に検討

伊藤議員 本町の基幹産業は喫緊の問題にある。町内で生産の農産物に対して価格補償を確立する考えはないか。

町長 町が何かしら助成すべきだと言われているが、価格補償制度を捉えてみると農家の所得向上に有効な手段ではあるが、いろんな補償制度があり現行制度の調整をはじめ、農畜産物の出荷、販売体制体系が農協出荷だけでなく、産地直売や加工利用など多様化している。明確な補償基準の設定が難しいと考えられ、安易な農畜産物の価格補償制度は逆に農家の生産意識や品質の低下につながる可能性もあり、慎重に検討すべきと考えている。

介護保険の軽減措置を

伊藤議員 本年4月から介護保険の第4期介護保険料の見直しが実施され、標準給付額が増となり、さらに介護報酬改定により負担増になるが、介護従事者処遇改善臨時特例交付金による負担軽減措置と介護給付費準備基金1億3,000万円の内、1億円の取り崩しによる負担軽減措置により保険料の引き上げを抑制した。さらに介護給付費準備基金を全額取り崩し、軽減措置を図るべきと考えるが、町長の見解はどうか。

町長 第1号被保険者の負担割合が19%から20%へ変更され1%増となり、さらに療養病床から老健施設の転換による給付の増を見込み、標準給付額を算定し、これに基づいて保険料を算定した結果、この第4期保険料基準月額3,955円となった。国の介護従事者処遇改善臨時特例交付金を取り崩すと1人当たり50円の軽減となり、さらに介護給付費準備基金1億3,000万円の内1億円取り崩して軽減を図り、結果的に基準月額保険料を3,338円と設定し、3,170円から168円の増となるため、県下で最も低い保険料となる。1億3,000万円、全額取り崩して基金ゼロにすれば保険料を上げなくてもいいのではないかという議論もあるが、不測の事態に備えて基金は必要であると考えている。



平成20年度に見直された雫石町保健福祉計画

質問者／
おおむらしょうとう
大村昭東 議員



農業指導センター等の在り方は

町長／適切な指導員を配置強化したい

ミニ公募債の発行は

大村議員 定額給付金給付事業について、町民の行政への参加を高め協働のまちづくりをすすめる方策としてミニ公募債を発行し、これを財源として道路や生活用排水路、防災交通安全など身近な生活環境を整備してはいかがか。

町長 この給付金は3月末から支給が始まるという段取りであり、時間的な問題や住民が公債などに慣れていないという課題などがあって早急には難しいが、町の経済落ち込み対策という観点から町独自のいろいろなアイデアのなかで地域振興策を図る。

大村議員 雫石町の農業産出額が105億円から82億円まで落ち込んだ実情、農業公社構想、ワサビや菜種栽培など過去数年の雫石町農政に係る各方面への評価をどのように捉え、農業振興策を推進するのか。

町長 農業者はもとより、関係機関・団体と連携・協調しながら、各施策を実施し諸課題に対応していきたい。

大村議員 平成21年産米市町村別生産目標数量が県下市町村の中で最大減の理由は何か。

町長 どのような理由で本町が県下で最大減となったか、県の担当課に厳重に申し入れたが、生産割当ては農業生産団体であることを理解されたい。

大村議員 税金の有効な使い方について、農業指導センター、農業経営簿記パソコン教室、コテージむら管理センターなどの運営に平成15年から平成21年度までで1億769万円の税金が投入されているにもかかわらず、本町農業の衰退が著しい。この際、農業指導センター等のあり方を全部見直すべきではないか。

町長 適切な指導員を配置しながら強化する考えであり、農家のために進めるような体制をとりたい。

新プロジェクトの成果は

大村議員 税金の無駄遣いの補足、雫石駅舎直売食材提供施設やレストランなどの新プロジェクト執行管理の仕法とその成果を伺いたい。

町長 総合計画実施計画による執行管理や行政改革への取り組みなどの方法で一定の成果をあげている。

施設に対する町民負担を明らかに

大村議員 貸借対照表など財務諸表で、雫石駅舎、アグリリサイクルセンター、体育館、道の駅などの施設に1年間にどの程度の税金を町民が負担しているかや遊休売却可能額資産を明らかにすべきではないか。

町長 財務諸表の実用で一番難しいのは財産の評価であり、今後研究の中で、また他の市町村と連携しながら対応したい。

一般質問

調査実施日／平成21年2月25日、3月4日
調査項目／所管事務調査、現地調査

合同

2月25日、委員会報告で各常任委員会より新年度事業について所管課の報告によれば計画どおり進んでいるとのことでした。

また、3月4日、BDF 精製施設、町立健康センター（仮称）建設現場、雫石銀河ステーションの改装工事現場を調査しました。



町立健康センター（仮称）建設現場の調査

調査実施日／平成21年2月25日、3月4日
調査項目／所管事務調査、請願申査

総務

総務常任委員会（大村昭東委員長）は、2月25日、総務課、経営推進課、税務課より新年度予算に係る重点事業について説明を受けました。

職員数は2名減の244名であり、出張バスの更新、黒沢コミュニティ消防センターの新築、今年の自主防災活動を行う行政区は50になる見込みなど総務課より説明を受けました。

経営推進課からは、平成21年度予算は3.8%減である。行政改革計画は最終年度であり、新年より新計画作成に取り組むとの説明でした。

税務課からは、個人町民税は1,500万円減少するなど、給与所得および法人所得の低下で落ち込みが大きいとの報告を受けました。

3月4日には、請願申査を行いました。

調査実施日／平成21年2月25日、3月4日
調査項目／所管事務調査

教育民生

教育民生常任委員会（横欠君夫委員長）は、学校教育、健康、福祉、環境など多岐にわたる所管事務調査を行いました。

2月25日、住民課より生活交通、花と緑のまちづくり構想の説明を受け、また、民宿バスのスクールバス活用検討などについて意見交換をしました。保健課からは健康推進、健康センター（仮称）建設について、社会教育課からは、教育振興運動推進、今後の行事等について、環境対策課からは、環境基本計画を21年度中に策定することやごみ処理の広域化計画の調査等について説明を受けました。

3月4日、合同現地調査後、福祉課よりBDF 装置、ボランティア活動センター再構築、生きがいデイサービスの介護予防サービスへの移行計画、御所保育園として完全民営化（21年4月より）、シルバー人材センターの法人化に向けてなどの説明を受けました。

また、閉会中の調査事項は、「教育問題について」の1項目を重点的に行うこととしました。



雫石町BDF精製施設の調査

調査実施日／平成21年2月25日、3月4日
調査項目／現地調査、所管事務調査

産業建設

産業建設常任委員会（坊屋鋪俊一委員長）は、2月25日に、岩手県林業技術センターおよび紫波町内の産直施設について現地調査を行いました。林業技術センターでは岩手県における木質バイオマスエネルギーの取り組みについて説明を受け、実証試験を行っているチップボイラーを見学しました。産直施設ではITを活用（産直センターと出荷組合員との受発注システム）した販売管理に取り組んでいる様子を視察しました。更に、現地調査終了後に所管事務調査を行い、新年度の重点事業について、それ

ぞれの所管課から説明を受けました。

3月4日には合同現地調査終了後に所管事務調査を行い、産業再生戦略会議の取り組み状況を確認するとともに、米の販路拡大やくず米の活用策などについて意見交換を行いました。



林業技術センターで説明を受けた
新エネルギー導入の取り組み

「しずくいし議会だより」が 全国コンクール入選で1席

第23回（平成20年度）町村議会広報全国コンクールで、「しずくいし議会だより第63号」が入選1席となりました。また、第27回（平成20年度）岩手県町村議会広報コンクールでは「第67号」が最高位の特選となりました。

審査員からは議事公開に対する編集内容や紙面構成を工夫している点などを評価していただきました。

岩手県町村議会広報コンクールには平成16年度から5年連続で入選を続けており、町村議会広報全国コンクールとのダブル入選は2度目となります。

このことは「声」の欄をはじめ、町民の皆さんのご提言やご協力により一体化した広報づくりができたことによるものです。

これからも、速やかにそして正確な議会情報をわかりやすく提供できるよう努めてまいります。



広報編集委員（前列左から、上野委員長、谷地副委員長、後列左から村田委員、川口委員、加藤委員、杉澤委員、石山委員）

あの質問は…その後どうなった

改選して任期 4 年の中間点にきました。議員活動も活発になり、当議会の一般質問の登壇者は県内町村議会では多い方で、特に一問一答式になってからは当局との質疑も充実してきています。この 2 年間に議会定例会が 8 回開かれました。毎回一般質問した議員は 5 人いました（8 回 5 人、7 回 1 人、6 回 1 人、5 回 0 人、4 回 1 人、3 回 2 人、2 回 1 人、1 回 3 人、0 回 4 人）。その中から 2 項目を選び、その提言が町政にどう反映されているかを調査しました。



設置が急がれる火災報知機

質 問

高齢化社会の到来により老年人口が年々増加を続け、死亡者数が多くなっている。町営火葬場を日曜日にも運営してほしいとの住民の声がある。住民ニーズに合わせ日曜日にも利用できるようにすべきである。

（平成 19 年 9 月議会）

質 問

平成 16 年の消防法改正により、既存の住宅については平成 23 年 5 月 31 日までに住宅用火災報知機を設置しなければならないが、町営住宅については当然町が取り付け必要がある。いつまでに設置するか。戸数、費用はどれほどか。

（平成 19 年 6 月議会）

処理状況

その後

指定管理者制度などの導入も検討したが、住民の利便性を第 1 に考え、平成 21 年 4 月から年末・年始を除く日曜祭日も町が火葬場管理専門員を配置して、平日と同じように運営することになった。

処理状況

その後

平成 19 年新築の春木場住宅 12 戸分は新築時に取り付け、その他既存の町営住宅 8 団地 229 戸は、平成 23 年度期限までに地域住宅交付金などの国の財政補助を活用して計画的に火災報知機を取り付けることになった。試算では 227 万 6,000 円の費用負担の見込みである。



日祭日も運用することとなった町営火葬場

クロースアップ アップ

改選後の新議員をシリーズで紹介しています。議席番号13番と7番の2名の議員が議員活動の抱負を語ります。

歴史に学ぶことを 信条に

さかしだ えいいち
坂下 栄一 議員

(56歳・団体職員・社会民主党)



今年もりんどうの春作業が始まりました

私は、行政施策の展開は人間が対象であり、人々の日々の暮らしが安定し向上することが政治の要だと思います。生きている今、その歴史の一部をつくっていることを自覚し、歴史から学ぶことを怠らずに努力していきます。

●プロフィール

平成 11 年 4 月に初当選し現在 3 期目。教育民生常任委員会委員、町監査委員（議会選出）。
家族、妻、娘 2 人、父、母、アイリッシュコーギー犬（小太郎）1 匹。趣味は読書とゴルフ。中沼行政区在住。

情緒豊かな魅力の 町づくりをめざして

いしやま ひとし
石山 仁 議員

(59歳・自営業・無所属)



親戚主催の還暦祝いでの一コマ

厳しい経済情勢の中、町が^{ぼう}標榜する「住んでよし訪れてよしの魅力あるまちづくり」実現のために、景観や文化、人との交流を大切にし町内外の皆さんの声に耳を傾け、町政に反映すべく微力ながら努力していきます。

●プロフィール

平成 15 年に初当選し現在 2 期目。総務常任委員会委員、教育民生委員会委員、議会広報編集特別委員会委員。

家族、妻、長男、母。南行政区在住



議会へのひとこと ——皆さんの声を聞きました



かわい とみこ
川井 富子さん
(73歳・東町行政区)



ふくもと さとし
福本 敏さん
(73歳・桧沢行政区)

“零石黒千石” 黒豆のブランド化



おおすが たつお
大菅 達夫さん
(58歳・極楽野行政区)

議会傍聴をして

議場に一步入場すると厳肅な雰囲気におのずと身の引き締まる思いでした。質疑は、今話題となっている「誘致工場による生活環境問題について」や注目されている「介護保険事業計画について」がなされておりました。

町長をはじめ、議員の方々がとても真剣に議論されている姿を目の当たりにし、私も引き込まれ、聞き入ってしまいました。非常に高度な内容の議論がなされていると感じました。議員の方々は、いろいろ調べたり勉強しているんだなと思いました。

農業、商業、観光といで湯のまち。私の生まれ育った大好きな町が、より一層素晴らしく魅力満載の零石町になるように、議員の皆さんの使命を重んじた思い切った活躍を期待いたしております。

いま市町村で、農産物を加工販売して観光と結びつける、地域振興・宝物探しの競争となっています。

「零石黒千石」黒豆は、零石の在来品種で、味がバツグン。在来品種としては、この豆が零石で作られていたことが約70年前の記録にも出ています。

何回かの食味テストにおいて、例えば、全国ブランドの「丹波黒豆」、岩手ブランドの「雁喰い豆」、「黒丸」と「零石黒千石」の4種を味付けなしで食べ比べると、全てのテストで、「零石黒千石」がダントツ1位でした。あと3種は混戦で大体「丹波黒豆」がラストとなります。「零石黒千石」は、味が濃く甘くておいしいとのこと。

さて、食味テストで最下位の「丹波黒豆」が、どうして全国ブランドとなりうるのか？ 零石のブランドって何？

「零石黒千石」は、まず栽培を回復し特産加工品を揃えることから始まりました。「太陽の子、農産物と食文化」の後ろ盾を整理して、ダントツの味と在来品種の特徴に物語性を加えたいと計画しています。「農業と観光の町」の議会において、活性化議論の一助になれば幸いです。

町議会に寄せて

県内において、議員の方々の裁量により零石町の財政事情は良い方にランクしていると思いますが、今や金融危機は我々の生活にまで影響が及んでいます。

地方の時代と言われ久しいわけですが、国や県からの助成が少なくなる中、地方自治の遂行も変革を迫られているのではないのでしょうか。

個人も地方も自立が求められていると思います。我々も行政サービスに何を期待するかというより、我々が行政や地域に何をやってあげれるかという意識改革が大事なのではと思います。

人口減少、財政負担など時代を考え、近隣市町村を鑑みる^{かんが}とき、今一度、議員定数の一考をと勇断を願うものです。

ふるさとへの便り— 35



在京雫石町友会 会員 ^{やち たかし} 谷地 隆さん

ブータンの民族衣装の「ゴ」を着用した筆者

チベットに故郷を感じる

ある登山家のリストに、二度と登りたくない山に男助山がある。そんなに不人気な山なのだろうか。私が所属している日本山岳文化学会から「郷土の山」の執筆依頼がきた。岩手の山の紹介者は3人、他の2人は、秀峰岩手山と早池峰山を題材とした。さもありなんと言った感である。岩手山は私の故郷の山でもあるのだが…、御所中学校に登校の際、男助山に吸い込まれるように、自転車のペダルを踏んだ。その男助山に、昨年8月家内と登ったが、生憎、雲霧の中での登りとなり、頂上付近で雨となってしまった。生家を飲み込んだ御所湖は、仰望できなかったのはいささか残念でもあった。

してみると、40年程前、「日本のチベット」と揶揄され卑下され上京したものだが、なんの因縁か今やチベット文化圏がフィールドワークとなってしまった。自称、秘境探検家を標榜し、毎年チベット文化圏を徘徊している。家内からは、卑怯者^{ひきょう}と罵声^{ののしり}を浴びせかけられての、単独行である。そのお詫びも含め、7000m級の

ヒマラヤではなく、700m級の男助山へのトレーニング・プレゼントということになった。雫石駅から山麓のケツパレランドまで、県道1号線を郷愁に浸りながら3時間程かけて歩いた。安庭通過の際、ご近所だった同級生のおかあさんとお会いし、久々のお国言葉での会話である。家内は、南部弁という“外国語”が解せなかったようで、片子沢まで通訳をしながらのんびりと歩いて行った。深沢には2～3歳、鶯宿には4～6歳くらいまで住んでいたようだが、記憶にはない。

御所ダムで実家が茨城県に引っ越してからは“雫石は遠くになりにつり”と言った感があるが、年に一度の在京雫石町友会は、故郷を思い出す絶好の機会でもある。町からも多くの方がお見えになり、訛り言葉での歓談と地酒は、故郷に陶醉する一時である。これからも、在京と町との良き交流会であって欲しいと願いつつ…。



1965年8月（昭和40年）同級生と岩手山登山。右端が筆者。筆者の隣が、エンターティナーの“安庭のアンちゃん”こと親父の谷地一（故人）



2009年3月（平成21年）ランタン・ヒマラヤ調査、後方がランタンリルン（7234m）、キャンジンゴンパ（3730m）にて

谷地 隆さんプロフィール

昭和26年生まれ。御所・安庭出身。東京都北区在住。駿台予備学校専任講師、駿台トラベル&ホテル専門学校講師、敬愛大学環境情報研究所研究員、日本山岳文化学会常務理事。大学・専修学校の教壇に立つ傍ら、ネパールの農村にてエコファーム・エコヴェレッジのプロジェクトにも従事。

子どもたちから町議会はどんな仕事をしたり、どんな仕組みになっているのか質問が寄せられることがあります。そこで子どもたちに分かるようにシリーズで解説しています。ご家族と一緒にご覧ください。

よく使われる議会用語 その4

「議会」ってな～に？

雫石町をより明るく住み良いまちにするために、選挙によって町民の代表者である議員を選びます。議会はその代表者である議員が、町民のみなさんに代わって町の仕事の内容やお金を使い方について話し合っているところです。

議会はいつやっているの？

雫石町では、定例会とって3月、6月、9月、12月の年4回行うことが決まっています。そのほか、緊急の場合などには、臨時会が開かれます。

議会の話題を紹介します

平成21年度の町職員定期人事異動が行われ、議会事務局1名の異動があり、合わせて併任書記の発令も行われました。

議会事務局

- ・転出 千葉昇主査（経営推進課へ）
- ・転入 川崎欣広主査（税務課から）



川崎欣広主査

併任書記

- ・任命 千葉 昇主査（経営推進課）
- 上野 基主査（福祉課）
- 高橋芳美主査（産業振興課）
- 細川悦子主査（学校教育課）

併任書記…議会に関わる会議などに参加して課題や情報を共有し、町当局との連絡調整がスムーズに行えるよう議会事務局以外の職員を書記として任命しています。

●今号の表紙／本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けいたしております。笑顔が絶えないまちの元気な子供たちの様子を紹介。今回は、「橋場へき地保育所」に通う園児たちの笑顔です。

議会の主な動き 1～4月

- 1月
- 4日 交通指導隊初点検式、消防出初式
 - 5日 町新年交賀会
 - 11日 成人式
 - 15日 政務調査会、雫石町政務調査会・滝沢村政務調査会合同研修会
 - 17日 ニューイヤー女性フェスタ
 - 18日 裸参り感謝祭
 - 29日 山形県大江町議会広報常任委員会視察来庁
- 2月
- 1日 第22回町民音楽祭
 - 10日 盛岡市市政調査会研修会
 - 13日 長野市議会しんクラブ視察来庁
 - 15日 第6回町民劇場
 - 17日 政務調査会
 - 18日 盛岡地区衛生処理組合議会議員全員協議会
 - 20日 県議長会第60回定期総会
 - 23日 盛岡地区広域行政事務組合2月定例会
 - 25日 常任委員会
- 3月
- 3日 第1回議会定例会開会
 - 4日 常任委員会
 - 5～6日 本会議
 - 9～10日 本会議（一般質問）
 - 11～13日 予算特別委員会 13日 政務調査会
 - 16日 予算特別委員会、議会運営委員会、雫石中学校卒業式
 - 17日 本会議、広報編集特別委員会
 - 18日 雫石小学校卒業式
 - 19日 町内各小学校卒業式
- 4月
- 6日 町農業経営者協議会第16回定期総会
 - 七ツ森、南畑、大村小学校入学式
 - 7日 町内各小学校、雫石中学校入学式
 - 8日 雫石高校入学式
 - 10日 篤宿地区水辺公園「うぐいす湯の里」落成式
 - 春の交通安全のぼりロード大作戦
 - 15日 政務調査会
 - 18日 銀河ステーション改築オープンセレモニー
 - 22日 郡議長会通常総会
 - 28日 広報編集特別委員会

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳(1月～3月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
1	0件 ー	6件 3万3千円
2	0件 ー	3件 1万3千円
3	0件 ー	5件 2万6千円
小計 (1月～3月)	ー	7万2千円

■編集デスク

底無しの大不況に沈む中、全国選抜高校野球大会で花巻東高校が見事に準優勝をおさめました。本県球史を変え大きな感動と勇気を与えてくれました。もう一歩で東北悲願の優勝旗を手中にできた悔しさもありますが、この夏に期待したいです。

当議会広報も平成20年度議会広報コンクールで県最高位の特選と全国入選1席に選ばれ、ダブル受賞し高い評価を頂きました。少しでも労苦が報われた気がします。このメンバーで編集するのは本誌で最終。6月議会広報から新メンバーに引き継がれます。編集委員は取材や執筆など苦勞もしますが、勉強させられることも多くあり、読者の皆様には感謝するのみです。

(編集委員長 上野 三四二)